



## 2021年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年7月31日

上場会社名 株式会社コラボス 上場取引所 東  
 コード番号 3908 URL http://www.collabos.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 茂木 貴雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 青本 真人 TEL 03(5623)3391  
 四半期報告書提出予定日 2020年8月6日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第1四半期の業績 (2020年4月1日～2020年6月30日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第1四半期	486	△1.1	18	△69.1	18	△69.7	9	△76.5
2020年3月期第1四半期	492	2.2	60	0.5	60	1.3	41	2.7

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第1四半期	2.03	1.99
2020年3月期第1四半期	8.63	8.42

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第1四半期	2,381	1,861	76.6
2020年3月期	2,343	1,852	77.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第1四半期 1,825百万円 2020年3月期 1,815百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—	—	—	—	—
2021年3月期 (予想)	—	—	—	—	—

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2021年3月期の業績予想 (2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	1,015	0.2	10	△90.1	7	△93.0	2	△95.5	0.42
通期	2,140	6.0	15	△92.2	12	△93.7	5	△94.1	1.04

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期1Q	4,791,000株	2020年3月期	4,791,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期1Q	32株	2020年3月期	32株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期1Q	4,790,968株	2020年3月期1Q	4,789,768株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載される業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料 4 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
第1四半期累計期間 .....	7
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(追加情報) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う国内外の経済活動の停滞や縮小に伴い、個人消費及び企業収益の大幅な悪化と共に、労働需要も急速に減少し失業率も増加しております。経済活動はようやく再開しつつありますが、新型コロナウイルス感染症の影響は長期化するとみられており、景気の先行きは不透明な状況が続いております。こうした景気見通しの中、「デジタル化の加速」と「新しい生活様式への変革」による、消費行動や業務形態等は大きく変化する可能性があり、これらの変化に対応していくことも重要となっております。

このような環境の下、当社を取り巻く国内クラウド型コールセンター市場におきましては、近年の通信販売やインターネットによる問い合わせ機会が増加しており、コールセンターのシステム需要も安定的に拡大しております。また、一方で、チャットやLINE等のSNSの普及に伴い、多様なチャネルからの問い合わせ内容を、例えばAIで分析させ、効果的な販売に結び付ける等、コールセンターのシステムは、より高度に進化していくものと考えられます。

当社は近年、このような将来のシステム高度化のニーズを先読みすべく、次世代のコールセンターシステムに関する知的システムの開発を進めており、今後3年間においては、先行的な開発投資を含め、後述の3点を成長戦略として、2020年5月12日に中期経営計画（2021年3月期～2023年3月期）を開示いたしました。

(成長戦略1) 現有サービスへの新ITソリューション追加開発

(成長戦略2) AI技術を活用した新コールセンターソリューションのリリース

(成長戦略3) コールセンターに集まるデータを活用したマーケティング事業領域への参入

当第1四半期累計期間におきましては、引き続き販路拡大及び、開発力強化等の人材育成に努めるとともに、中期経営計画の「AI技術を活用した新コールセンターソリューションのリリース」の一環として、当社ソフトフォンサービス「COLLABOS PHONE」へお客様設定変更画面の改修等を実施し、2020年7月2日付で新たに6つの機能のサービスリリースをいたしました。

また、現有サービスにおきましては、新規案件及び既存案件の増席契約等の獲得、新型コロナウイルスの影響を受けるお客様へのリモートワーク・テレワーク環境提案等で拡販に努めてまいりました。

さらに、コールセンター業界においても近年の少子高齢化に伴う労働力人口不足、働き方改革による労働時間の短縮により、AI（人工知能）等の技術を取り入れたサービスが主流になってきており、AI音声認識サービス「AmiVoice（※1）」や、AIデータ解析サービス「GOLDEN LIST（※2）」等のITソリューションの販売も強化してまいりました。一方で、前事業年度の契約終了案件の発生により、現有サービスの月額利用料金が減少となりました。

このような取り組みの結果、当第1四半期累計期間の売上高につきましては486,793千円（前年同四半期比1.1%減）となりました。製品・サービスごとの状況は、以下のとおりであります。

なお、当社の事業はクラウドサービス事業の単一セグメントのため、セグメント別の記載はしておりません。

- @nyplace

AVAYA社製交換機をクラウドサービスで提供する「@nyplace」につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う当社顧客の業務拡大による売上高の増加等があったものの、前事業年度の契約終了案件の発生による月額利用料金の減少が影響したことにより、期間平均利用席数は7,216席（同1席増）、売上高は361,397千円（同5.7%減）となりました。

- COLLABOS PHONE

自社開発によるソフトフォン型コールセンターシステム「COLLABOS PHONE」につきましては、コストメリット重視といった堅調な引合いを背景に、新規契約の獲得や通信利用料の増加等により、期間平均利用チャネル数は1,498チャネル（同349チャネル増）、売上高は61,891千円（同20.7%増）となりました。

・COLLABOS CRM及びCOLLABOS CRM Outbound Edition

コールセンター利用に特化した顧客情報管理システム「COLLABOS CRM」及び「COLLABOS CRM Outbound Edition」につきましては、契約ID数の減少等による売上高の減少はありますが、電話系サービスと組み合わせたトータルソリューションの提供により、当社サービス全体の売上高に寄与しております。

「COLLABOS CRM」については、期間平均利用ID数は2,009ID（同261ID減）、売上高は32,052千円（同11.2%減）となりました。また、「COLLABOS CRM Outbound Edition」については、期間平均利用ID数は835ID（同90ID増）、売上高は10,874千円（同6.0%減）となりました。

売上原価につきましては、282,567千円（同5.2%増）となりました。主な増加要因は、「@nyplace」への先行投資であるネットワーク機器や交換機等の設備投資に伴う保守費用及び償却費用が増加しております。

加えて、「COLLABOS PHONE」の新規獲得等に伴う通信利用料の増加、AI音声認識サービス「AmiVoice」等のITソリューション販売増加に伴う仕入等が増加しております。製品・サービス別の内訳では、@nyplace関連で204,693千円（同1.3%増）、COLLABOS PHONEで47,582千円（同15.8%増）、COLLABOS CRM（Outbound Edition含む）で14,817千円（同20.7%減）となりました。

販売費及び一般管理費につきましては、185,437千円（同14.0%増）となりました。主な増加要因は、人的リソースの拡充に伴う人件費及びサービスの拡販に関わる広告費、中期経営計画における開発に伴う業務委託費の増加等によるものであります。

以上の結果、損益につきましては、営業利益は18,788千円（同69.1%減）、経常利益は18,337千円（同69.7%減）となりました。

また、当社の非連結子会社であります株式会社シーズファクトリーに関する関係会社株式評価損及び関係会社債権放棄損を特別損失に計上したことにより、四半期純利益は9,729千円（同76.5%減）となりました。

なお、当社は2020年5月12日開催の取締役会において、当社の非連結子会社であった株式会社シーズファクトリーを吸収合併することを決議し、2020年7月1日付で吸収合併いたしました。

〔用語解説〕

※1 AmiVoice Communication Suite provided by コラボス

（アミボイス コミュニケーション スイート プロバイデッド バイ コラボス）

AI技術によるリアルタイム音声認識ソリューションを活用し、コールセンターの通話内容をリアルタイムにテキスト化、自動で回答内容を表示し応答スピードを向上、ロボットによる通話の自動評価等、AIを活用し様々な方法でコールセンターの応対品質や、センター全体の業務の効率化を実現するサービス。

※2 GOLDEN LIST（ゴールデンリスト）

企業の持つ顧客データから、独自の解析ロジックにより、「いつ、誰に、どのような商品が売れるのか」をAIによる学習機能を使って解析・予測を行い、成約見込みの高いリストを作成します。アウトバウンドの費用対効果を高め、収益向上に貢献する、AIデータ解析サービス。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて37,726千円増加し、2,381,320千円となりました。主な要因は、減価償却に伴う有形固定資産の減少があった一方で、売掛金の回収に伴う現金及び預金の増加、新サービス及び現有サービスへのITソリューション開発投資等の無形固定資産の増加によるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて28,992千円増加し、520,005千円となりました。主な要因は、未払法人税等の納付及び買掛金の支払いによる減少、リース料決済によるリース債務の減少があった一方で、新サービス及び現有サービスへのITソリューション開発投資等に伴う未払金の増加によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の部は、前事業年度末に比べて8,733千円増加し、1,861,315千円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2020年5月12日の「2020年3月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,576,340	1,615,816
売掛金	228,757	187,259
商品及び製品	8	-
前払費用	24,200	32,447
その他	4,883	5,672
貸倒引当金	△484	△192
流動資産合計	1,833,706	1,841,004
固定資産		
有形固定資産		
建物	33,493	33,493
減価償却累計額	△14,864	△16,266
建物(純額)	18,629	17,226
工具、器具及び備品	394,812	397,907
減価償却累計額	△365,514	△368,826
工具、器具及び備品(純額)	29,297	29,080
リース資産	582,476	580,833
減価償却累計額	△276,731	△298,746
リース資産(純額)	305,745	282,087
有形固定資産合計	353,671	328,395
無形固定資産		
ソフトウェア	63,866	73,874
ソフトウェア仮勘定	28,903	77,488
その他	414	414
無形固定資産合計	93,185	151,777
投資その他の資産		
関係会社株式	15,506	14,111
差入保証金	22,050	20,558
破産更生債権等	1,202	1,199
繰延税金資産	24,502	24,502
貸倒引当金	△231	△228
投資その他の資産合計	63,029	60,143
固定資産合計	509,887	540,316
資産合計	2,343,593	2,381,320

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2020年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	88,656	64,202
短期借入金	10,000	10,000
リース債務	112,196	105,204
未払金	18,804	94,606
未払費用	1,213	1,959
未払法人税等	26,518	8,448
未払消費税等	6,753	11,261
前受金	1,947	2,338
賞与引当金	-	15,447
その他	3,612	4,099
流動負債合計	269,703	317,569
固定負債		
リース債務	221,309	202,435
固定負債合計	221,309	202,435
負債合計	491,012	520,005
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	324,774	324,774
資本剰余金		
資本準備金	304,774	304,774
資本剰余金合計	304,774	304,774
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,185,950	1,195,680
利益剰余金合計	1,185,950	1,195,680
自己株式	△24	△24
株主資本合計	1,815,476	1,825,206
新株予約権	37,105	36,109
純資産合計	1,852,581	1,861,315
負債純資産合計	2,343,593	2,381,320



(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)
売上高	492,004	486,793
売上原価	268,565	282,567
売上総利益	223,439	204,226
販売費及び一般管理費	162,639	185,437
営業利益	60,800	18,788
営業外収益		
受取利息	-	3
受取手数料	789	519
違約金収入	-	102
雑収入	62	5
営業外収益合計	852	630
営業外費用		
支払利息	1,076	1,081
営業外費用合計	1,076	1,081
経常利益	60,575	18,337
特別利益		
新株予約権戻入益	184	996
特別利益合計	184	996
特別損失		
関係会社株式評価損	-	1,395
関係会社債権放棄損	-	2,396
特別損失合計	-	3,792
税引前四半期純利益	60,759	15,541
法人税等	19,404	5,811
四半期純利益	41,355	9,729

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

当第1四半期累計期間における、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定については、前事業年度の有価証券報告書の記載時点より重要な変更はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。